

年間授業計画

教科	科目	使用教科書	単位数	対象学年・組
国語	現代の国語	『現代の国語』（筑摩書房）	2 単位	第 1 学年 A～H 組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わることでものの見方・感じ方・考え方を深める態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	1 他者へ問いかける力をつけることで対話力を伸ばす ・言葉の特徴や使い方を学ぶことで、自己の考えを深め、伝える力を伸ばすことができる。 ・言葉のもつ認識や思考を支える働きを踏まえ、他者へと問いかけるためにさまざまな視点を持つ対話を目指す。 ・教材を手がかりに、言葉を介した他者との関係を豊かにし、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとする。	・川上弘美「境目」 ・斎藤亜矢「サイエンスの視点、アートの視点」 ・苦野一徳「一般化のワナ」 ・一人1 台端末の活用 等	○			・本文中の表現に着目し、言葉のもつ認識、思考を支える力を理解している。 ・グループ内での対話をより深めるために、正確さ、わかりやすさ、適切さに留意した表現や言葉遣いについて理解し、使用しようとしている。 ・さまざまな視点から「問い」を立てることを通して、自己の考えを認識し、他者に説明しようとしている。 ・自己の主張をする際に、論拠となる情報、また個別の情報と一般化された情報との関係などについて理解している。 ・対話の内容に応じて、実社会から適切な話題を決め、端末なども使用して、様々な視点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討、精選することができる。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表し、ほかの人の発表を注意深く聞き取ることで、自己のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	4
	2 情報を正確に読み取ることで、論理的な内容や構成、展開を理解する。 ・評論文の読解を通じて、語句や語彙の特色、論理の展開など文章の効果的な組み立てを理解する。 ・評論文の読解を通じて、「ことば」や、現代社会への認識を高めることで、自己の表現を工夫することができる。 ・現代社会を表す「ことば」や図表などさまざまな情報に触れることで、関心の幅を広げようとする。	・内田樹「ことばとは何か」 ・黒崎政男「デジタル社会」 ・中屋敷均「システムと変異」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○		・本教材に出てくるさまざまな術語を複数の辞書を用いて調べること、辞書的な意味と異なる筆者による語句の使用の仕方や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解するとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・評論文の特性を理解し、図表などの資料の使い方が内容や構成に与える影響を理解し、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ・筆者の主張に関心を持ち、身近な具体例を取り上げ自分の意見をグループ内で発表することで、より多様な視点を得ようとしている。 ・本時の学習活動の中で文章を書いたり発表したりする際に、実社会における具体例や比喻を用いたり、本時で学んだ推論の仕方を理解して使っている。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表し、ほかの人の発表を注意深く聞き取ることで、自己のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	7
	中間考査						○	○		1
	3 文章構成や具体例の働きを理解し、効果的な文章表現を理解する。 ・言語行為や身体など身近なものを用いた表現構造とその効果を理解する。 ・本文をもとに、実社会の中から適切な題材を探し、妥当性や信頼性などを吟味して自分の主張を明確に表す。 ・筆者の主張の意味を考えることで、自分の考えの幅を広げようとする。	・中村桃子「ことばがつくる女と男」 ・鷲田清一「身体、この遠きもの」 ・松村圭一郎「贈り物と商品の違い」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○		・学習活動の中で文章を書いたり、発表したりする際に、各部分と全体の構成との関係を踏まえ、効果的な組み立てや表現ができる。 ・読み手の理解が得られるように、論理の展開や情報の分量、示し方など重要度の違いがわかりやすいように表現の工夫をすることができる。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を工夫している。 ・言葉や身体と自己のあり方、物を通して社会を捉えるなど、本教材の内容に関心を持ち、多様な視点を持つことで、ものの見方や感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	9
	4 資料やデータの読み取り方を学び、正しく効果的に活用する。 ・資料やデータの読み方扱い方を学び、効果的に使用することができる。 ・目的に応じて文章や図表などの含まれている情報を相互に関連づけながら内容や書き手の意図を解釈し、文章の構成や論理展開などについて評価することで、自分の考えを深める。 ・推論の学習に興味関心を持って学習し、他者へと働きかけようとする。	・堀正岳「わかっていることのないこと」 ・シートン「兎が自分でつづって語る生活の話」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	・本教材を通して、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。 ・評論文や実用文という文章の特性を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。 ・筆者の推論過程を順序立てて理解説明することで、推論の仕方を理解し自分の文章に使うことができる。 ・自分の目的に応じて、さまざまな資料やデータを利用して情報を相互に関連付けながら、読み手にわかりやすく自分の考えを説明することができる。 ・情報を整理したり活用したりする学習の内容に関心を持ち、積極的に自分の考えを記述し発表するとともに、他者の考えにも耳を傾け、自己の世界を広げようとしている。	○	○	○	4
期末考査						○	○		1	
2 学 期	5 話し合いから議論へと、個人的体験から社会的問題へと話題を発展させる。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を理解し適切に使うことができる。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を求め、様々な観点から	・ブレイディみかこ「誰かの靴を履いてみること」 ・宇野重規「〈私〉時代のデモクラシー」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○		・本文中の会話文と描写が果たしている表現効果を理解している。 ・過去に体験した出来事の中から、話し合いの目的や場に適切な話題を取り上げるだけでなく、実社会の中からも適切な話題を探し、様々な観点から伝え合う内容を検討し、表現の工夫をしながら発表することができる。 ・「近代社会」「デモクラシー」について、調べたこと考えたことをグループ内で発表し、話し合うことで筆者の主張をより深く理解しようとしている。	○	○	○	4

	<p>考察、整理して伝え合う内容を検討することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いを発展させようとする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効果について理解を深めている。 ・教材の内容に関心を持ち、積極的に発表するとともに、他者の意見に耳を傾け、さまざまな視点から考察しようとしている。 					
	<p>6 さまざまな情報を関連づけながら筆者の主張を読み解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評論文の特徴を踏まえ、叙述を基に的確に捉え、要点や要旨を把握することができる。 ・筆者の主張とその論理展開からさまざまな情報とその意味、関係性を理解する。 ・本教材が示す内容が現代の私たちに持つ意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若林幹夫「魔術化する科学技術」 ・野矢茂樹「未来は存在しない」 ・岩井克人「マルジャーナの知恵」 ・一人1台端末の活用 等 			<ul style="list-style-type: none"> ・意味段落の関係を理解することで、文章の効果的な組み立てへの理解を深め、要約文や意見文に使うことができる。 ・文章中の引用の仕方や出典の示し方、修辞や構成、論理展開上の工夫や述べ方について理解を深めている。 ・評論文の内容や構成、論理の展開などについて叙述を的確に捉え、要点や要旨を把握することができる。 ・本文を読解するために前提となる情報を理解することで、文章中の情報が単なる個別のデータではなく、筆者の主張を支える根拠となる一般化された情報として扱われていることを理解する。 ・筆者の主張を基にして、実社会の場へと興味関心の幅を広げ、インタビューするなどの活動を通じてグループ内での議論、発表に生かしている。 				9	
	中間考査									1
	<p>7 多様な観点からさまざまな情報を整理し考察する力を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文中の情報を整理し、その関係性から主張を読み取ることができる。 ・さまざまな観点から情報を収集、整理して社会的な話題に関する議論を行う。 ・話し合いを通して学んだことを他者と共有しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国谷裕子「ポスト真実時代のジャーナリズム」 ・長田弘「会話と対話」 ・伊藤亜紗「記憶する体」 ・一人1台端末の活用 等 			<ul style="list-style-type: none"> ・情報から真実・事実とみなされるものを抜き出し、なぜそのように判断したのか、基準を説明できている。 ・情報の妥当性やシラ異性の吟味の仕方について理解を深めることができている。 ・場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように工夫することができている。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 ・論点を共有し、話し合いの目的や状況に応じて表現や進行の仕方などを工夫することで、話し合いの仕方や結論に至る道筋を明確にすることができている。 				7	
	<p>8 目的を意識した文章表現を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二項対立など文章表現のための工夫を理解し、使用することができる。 ・論理展開に留意し、さまざまな情報を関連づけ、読み手の理解が得られるよう工夫する。 ・読み手を意識することで自分の課題を捉え直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山田登世子「贅沢の条件」 ・堀江敏幸「瓦を解かないこと」 ・一人1台端末の活用 等 			<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を求め、集めた情報を整理し、妥当性や信頼性を吟味して、自分の伝えたいことを明確にしている。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えた上で、文章の構成や展開を工夫することができている。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、目的や意図に応じて書かれているかなどを確認することで、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおしたりしている。 				6	
	期末考査									1
3 学 期	<p>9 論理的な文章の組み立てを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠の適切な示し方や文章構成について理解する。 ・筋道を立てて論述する仕方を学ぶ。 ・説得力ある文章表現に積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・國分功一郎「来るべき民主主義」 ・小坂井敏晶「主体という物語」 ・一人1台端末の活用 等 			<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて論述する仕方や、仮説を立てることを通して、言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・本教材から読み取ったことを基にして、グループ内で論点を共有し、質問、説明し合うことによって、理解を深めている。 ・説得力ある文章になっているか、根拠の示し方などを検証するとともに、適切な言葉遣いなど文章表現の工夫をしている。 ・読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章が論理的な組み立てになっているかを確認し、社会的問題へと論点を広げたり深めたりしていこうとしている。 				7	
	<p>10 複眼的な視点から文章を読み解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化や近代など、現代社会の問題を考察する基礎的語彙を習得する。 ・さまざまな視点から問題を取り上げることで、私たちに求められる課題を明確にする。 ・現代社会を象徴する言葉について関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岡真理「開かれた文化」 ・大澤真幸「リスクと近代社会」 ・西谷修「名づけと所有」 ・一人1台端末の活用 等 			<ul style="list-style-type: none"> ・自分の属する文化、社会に目を向けることで、対象との関係を自覚し、意識的に多様な視点を持つようとしている。 ・本教材に用いられている具体例とその意味するところを一般化する取り組みを通じて、現代社会の問題点をグループ内で共有し、ほかの人の意見を参考にしながら、自己の考えを広げたり深めたりしている。 ・論理の展開を予想しながら、聞いたり読んだりすることで、話の内容や構成、表現の仕方を評価し、自己の考察に生かそうとしている。 ・現代社会に生きる私たちに求められていることは何か、本文を踏まえた上で考察を深めている。 ・現代社会を象徴する言葉に着目し、グループ内で話し合うことによって、ことばの力への興味関心を持ち、読書の幅を広げようとする。 				8	
	学年末考査									1
										合計
										70

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表への取り組みやその内容等

年間授業計画

都立西高等学校

教科	科目	使用教科書	単位数	対象学年・組
国語	言語文化	『言語文化』（数研出版）	3単位	第1学年A～H組

科目の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数
			書	読					
1 学 期	1 言語文化と古文・漢文 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、我が国の言語文化についての理解を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「宇治拾遺物語」 漢文入門 一人1台端末の活用等			<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、我が国の言語文化についての理解を深めている。 積極的に文章の内容を捉えようとし、言語文化についての理解を深めようとしている。 	○	○	○	8
	2 言語文化と近現代文 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解し、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	芥川龍之介「羅生門」 「今昔物語集」 一人1台端末の活用等			<ul style="list-style-type: none"> 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解し、言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 積極的に自らの作品世界を構築し、自分の考えをまとめた上で、『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、考察しようとしている。 	○	○	○	9
	中間考査					○	○		1
	3 古典の広がりを読む ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえた上で、解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「伊勢物語」 「大和物語」 一人1台端末の活用等			<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえた上で、解釈を深めている。 積極的に後人の付け加えた注記について分析し、粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、「筒井筒」と「沖つ白波」の違いを抽出しようとしている。 	○	○	○	10
	4 故事成語と漢文 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	朝三暮四「列子」 狐借虎威「戦国策」 漁父之利「戦国策」 一人1台端末の活用等			<ul style="list-style-type: none"> 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 積極的に我が国の故事成語と、背景となった漢文を比較しながら解釈しようとしている。 	○	○	○	10
	期末考査					○	○		1
2 学 期	5 「語り」を読む ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって	「土佐日記」 「竹取物語」 志賀直哉「城之崎にて」			<ul style="list-style-type: none"> 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、また作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 積極的に古文の日記や物語、近代小説を、「語り」 	○	○	○	10

	読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	一人1台端末の活用等			の意図という視点で読み解こうとしている。				
6	歴史の中の人間 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	先従隋始「十八史略」 鶏口牛後「十八史略」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・積極的に歴史的な背景を踏まえた上で、文章を解釈しようとしている。	○	○	○	10
	中間考査			○		○	○		1
7	古人の価値観を探る ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「枕草子」 「徒然草」 雑説「漢昌黎集」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ・積極的に文章に描かれた古人のものの考え方、価値観を探り出し、自分の考えを深めようとしている。	○	○	○	10
8	韻文と言語文化 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「万葉集」 「古今集」 「新古今集」 漢詩 近現代の短歌 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・言語文化としての韻文を、修辞や背景を踏まえて積極的に解釈しようとしている。	○	○	○	10
	期末考査			○		○	○		1
3 学 期	9 言語文化を創造する ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	短歌を創作する 古典を引用して随筆を書く 作品を鑑賞し合う 一人1台端末の活用等		○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・これまでの学びを生かして、積極的に短歌や随筆の創作をし、鑑賞し合っている。	○	○	○	8
	10 時代と文学・時代と思想 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	「平家物語」 「論語」 「孟子」 田宮虎彦「沖縄の手記から」 一人1台端末の活用等		○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解し、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・文学や思想が生まれた時代について理解し、積極的に解釈を深めようとしている。	○	○	○	15
	学年末考査			○		○	○		1
									合計
									105

評価の方法：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	定期考査を中心に、提出物、小テスト、発表等	授業への取り組み、提出物、小テスト、発表等